

一般社団法人コミュニティシネマセンター

平成30年度(2018年度)事業計画

1. 受託事業

[1] 「映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ 2018」

(文化庁 平成30年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

継続的に実施している人材育成事業。これまでに、デジタル時代における映像メディア・キュレーター育成(H24)、ソーシャルビジネスとしての映像文化事業を展開できる人材の育成(H25)といった重点テーマを掲げ、H26～27年度は、文化政策における映画映像事業、とりわけ「上映」事業に対する振興策を考えることをテーマに、人材育成プログラムを構築してきた。H29年度はデジタル化の進行により多様化する「上映」の有り様を取り上げ、ディスカッションやワークショップを実施した。

今年度も映画上映を取り巻く状況の変化や新たな動きを考え、共有するためのシンポジウムやワークショップや、地域の上映者を育成するための、より具体的な様々なワークショップや情報提供等の事業を通して、地域の上映活動を担う新たな人材を育成するための事業を実施する。

(1) 全国コミュニティシネマ会議の開催

2018年9月28日(金)、29日(土) 会場:山形グランドホテル(山形市) 他 参加者:150人程度
このシンポジウムには、全国の映画館関係者、映画祭関係者、公共ホール・美術館・図書館(シネマテーク)の映像事業担当者、自治体の文化事業担当者、シネクラブの主催者、自主上映団体が集まり、情報交換、ディスカッションを行う。

テーマ(案):映像文化創造都市 山形市

山形市はどのような“映像文化創造都市”を目指しているのかを聞き、映画映像文化で地域づくりを行う内外の事例報告とディスカッション、様々な分科会を実施する。
具体的なプログラムについては添付資料参照。

(2) ディスカッション&ワークショップ

「映画上映ーわたしたちの時代」(仮)

実施期間:2018年12月予定(東京) 参加予定者:80人程度

2000年代以降、デジタル化の進行は、上映環境に様々な変容をもたらしている。シネコンが映画館の主流をなし、インターネットやスマホで映画をみるのが一般化する中で、上映活動を行う新しい世代の映画上映についてディスカッションを行い、若い上映者のネットワークづくりの場ともする。

「ワークショップーデジタル機材はどう変わるのか」(仮)

実施期間:2018年9月予定 参加予定者:40人程度(コミュニティシネマセンター会員対象)

全国コミュニティシネマ会議に合わせて実施するワークショップ(勉強会)。数年後に迫るデジタル機材の更新について専門家の話を聞き、対応策を考える。映画上映振興策についても意見交換を行う予定。

(3) Fシネマプロジェクトの推進

- ① Fシネマの情報ポータルサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供・ネットワークづくり
今年度はフィルムでの上映情報の充実をはかる。
- ② 上映者・映写技師育成のためのワークショップ、フィルムでの上映企画を2～3会場で実施。

→ワークショップ=1~2会場

→上映会=2~3会場

- ③ 若年層(子ども)を対象とした上映会(こども映画館)のウェブサイトの作成、上映者用テキストづくりを行う。

実施期間:ウェブサイトの運営は通年。

ワークショップ・上映会は2018年の夏~冬に実施予定。

※「こども映画館」「ワイズマン特集」(シネマテークプロジェクトの項参照)との連動。

(4)アートマネジメントワークショップ イン 東北

東日本大震災の被災地、映画館がなくなってしまった東北の太平洋沿岸地域で、映画上映の場をつくり、映画文化の拠点づくりを支援するための事業。シネマエール東北のコンセプトを継承して、今回は、石巻、気仙沼、宮古、陸前高田等で、それぞれ上映会を企画・実施し、上映者の育成・自立を進めるとともに、東北の上映者同士の交流や情報交換の機会をつくる。

実施期間:2018年7月~2019年3月(企画立案~実施)

実施地域(予定):岩手(宮古、陸前高田)、宮城(石巻、気仙沼)等の上映者を対象に実施

[2] 「映画上映活動年鑑 2018」の作成

(文化庁 平成30年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業)

「興行」(及び配給)の動向に関する既存のデータや情報を活用しながら、これに、映画祭や公共上映等の新しいデータを加えて、より幅広い視点から映画の[上映]をとらえ、データを収集し、2018年の映画上映の状況を分析する。フィルムアーカイブやシネマテーク、映画祭、公共ホールを使って行われる移動上映など、これまでの映画のアンニュアル・レポート的な刊行物では取り上げられないことのなかった「上映」にも目を向け、上映活動の新しい動向にも着目する。本年鑑によって、文化事業という視点から上映の状況を提示し、分析することにより、国レベルあるいは地方自治体レベルにおける、文化事業としての上映活動の振興を考えるための基礎資料を提供する。

I 映画館での上映

- (1)全国興行概要
- (2)都道府県別データ
- (3)公開本数など
- (4)諸外国との比較

II 公共上映

- (1)映画祭:全国映画祭リスト
- (2)公共ホール:映画を定期的に上映している公共施設リスト
- (3)映画収集保存・上映館:映画収集保存・上映館(アーカイブ、シネマテーク)リスト

III 特別調査…以下のようなテーマを検討中。

- ・地域の映画環境詳細調査
- ・上映振興策の提案

IV 世界の映画上映事情

- ・世界のスクリーンを歩く ポルトガルを予定

V 資料

全国コミュニティシネマ会議の記録

都道府県別(映画館/公共施設・シネマテーク/映画祭)

シネマテークリスト/映画関連資料館/映画を上映している公共ホール/地域別映画地図

2. 自主事業

[1] シネマテーク・プロジェクト /F シネマ・プロジェクト関連企画

(1) こども映画館「スクリーンでみる日本アニメーション！」(国立映画アーカイブ共同事業)

映画をみて、日本のアニメーション映画の歴史や、様々なアニメーションの技法に触れ、アニメーション史を彩るつくり手たちを知り、アニメーションを体験することができる、子どもたちにも、大人にも楽しんでもらえるプログラム「こども映画館 スクリーンでみる日本アニメーション！」を、国立映画アーカイブの協力を得て、全国に巡回する。

① プログラムの巡回

鎌倉市川喜多映画記念館、仙台短篇映画祭、札幌映画サークル、山口情報芸術センター、高知県立美術館、高崎映画祭等5～6会場で実施予定。

② プログラムの追加……新しいアニメーション映画プログラムの追加

③ テキストづくり……2018年夏頃までにウェブサイト上にアップ予定

④ ウェブサイトの作成

[2] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 「カイエ・デュ・シネマが選ぶフランス映画の現在」(仮)

フランスの伝説的映画雑誌「カイエ・デュ・シネマ」誌とアンスティチュ・フランセ日本が提携し、現在の映画を語るべく、選りすぐった作品を紹介する「カイエ・デュ・シネマ週間」。コミュニティシネマセンターでは、2018年の同特集で上映されたクレール・ドゥニ、ブリュノ・デュモンなど現代フランス映画を代表する監督の最新作から新鋭監督の意欲作に加え、これまでの同特集で上映された作品を加え、まさに“フランス映画の現在”をみることができる10数本(劇場未公開)をセレクトした「カイエ・デュ・シネマが選ぶフランス映画の現在」(仮)を巡回する。

巡回予定作品

- ・レット・ザ・サンシャイン・イン 2017/クレール・ドゥニ
- ・ジャネット、ジャンヌ・ダルクの幼年期 2017/ブリュノ・デュモン ※2018年オープニング作品
- ・パーク 2016/ダミアン・マニヴェル ※ダミアン・マニヴェル セレクション
- ・ヴィクトリア 2016/ジュスティーン・トリエ
- ・さよならは言わない 2017/クリストフ・アグ
- ・ジャングルの掟 2016/アントナン・ペレジャトコ
- ・7月14日の娘 2013/アントナン・ペレジャトコ
- ・湖の見知らぬ男 2013/アラン・ギロディ※2017年アラン・ギロディ特集
- ・ソルフェリーノの戦い 2013/ジュスティーン・トリエ
- ・プティツ・カンカン 2014/ブリュノ・デュモン

ほか

巡回予定：広島市映像文化ライブラリー、山口情報芸術センター、高知県立美術館、ユーロスペース、名古屋シネマテーク 他

(2) フレデリック・ワイズマン全作品上映

昨年の山形国際ドキュメンタリー映画祭で最新作『エクス・リブリス ニューヨーク公共図書館』が上映され、他の追従を許さない圧倒的な作品世界を見せつけた偉大なるドキュメンタリー作家フレデリック・ワイズマン。今年秋以降、『ジャクソンハイツ』(2015)、『エクス・リブリス』(2017)が相次いで劇場公開される。コミュニティシネマセンターでは、アテネ・フランセ文化センターとともに

に、現在上映可能な40作品をすべて上映する「フレデリック・ワイズマンのすべて」(仮)を開催する。また、この機会に全国各地での上映を促す。

巡回予定会場：イメージフォーラム、広島市映像文化ライブラリー、山口情報芸術センター他。

(3) 「ケン・ローチ レトロスペクティヴ」(仮)

英国映画の巨匠ケン・ローチ監督の特集上映。川崎市市民ミュージアムが所蔵する同監督作品を軸に、上映権を取得し、特集上映の企画を策定する(2019年1月以降開催～巡回予定)。

(4) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

フレデリック・ワイズマン監督作品、ヤスミン・アフマド監督作品、福島県南相馬市の映画館「朝日座」についてのドキュメンタリー映画『ASAHIZA～人間は、どこへいく』、その他、当センターが保有する作品、配給委託作品の貸出を行う。

[3] ミニシアターネットワーク(シネマ・シンジケート プロジェクト)

(1) 会員相互割引サービス/デジタルシネマの情報共有など

- ・ コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。
- ・ 間近に迫るデジタルシステムの更新について情報提供を行う。

(2) 会員館・団体共通「マナー広告」映像公開

[4] 映画上映振興策 実施計画書の作成

[5] その他の事業

(1) ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実など

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行う。会員制度のさらなる充実を期し、団体会員の増加をはかる。特に賛助会員の獲得を目指す。

(2) 地域のコミュニティシネマに対する支援・アドバイスなど